

ぼらっと

2025年
9月25日発行
122号

発行元 雫石町ボランティア活動センター
〒020-0541 雫石町千刈田82-2
雫石町総合福祉センター内
☎:692-2230 FAX:691-1140



ホームページ



X(旧Twitter)

赤十字奉仕団、被災地へ「家庭の味」

せんぼくし ひのきないがわ はんらん しんすいひがい

— 秋田県仙北市 桧木内川の氾濫による浸水被害を受けて —

令和7年9月2日と3日の両日、雫石町赤十字奉仕団の団員が、浸水被害にあった仙北市上桧木内地区を訪れ、避難所へ身を寄せている方々へ、心を込めた手作りのお弁当を延べおよそ130食お届けしました。



【活動1日目】9/2(火)に届けたお弁当のおかず部分
想いもおかずもあふれんばかりに“みっちり”詰まっています

雫石町赤十字奉仕団 中川委員長は、『雫石町が被害を受けた際(平成25年8月豪雨)、各地から多くのご支援をいただきました。今回の活動は、少しでもその際の恩返しをできれば、という思いもあります。不安な日々を過ごす方々がほっとできるひとときになれば幸いです』と、話されていました。

お弁当を食べた方々からは、『しばらくぶりに家庭的な料理を食べたので、心まで元気になりました』『野菜がたくさん入っていて、とても嬉しいです』といった声が、仙北市災害ボランティアセンターへ寄せられたそうです。現地の担当者によると、これまでの食事支援は、どうしても仕出し弁当などの出来合いの食事が中心だったため、今回のように野菜をたっぷり使ったお弁当は、ことのほか喜ばれたとのことでした。



お米や野菜の多くは、町内有志の方々からご提供いただきました！

上桧木内地区の方たち

中川真理子委員長



雫石とお隣のまちだけど、上桧木内地区までは車で約1時間半かかるよ



再び氾濫しそうな桧木内川で、えぐられた川岸に土のうを積む重機【9/2(火)撮影】

○今回の被災地について(9/12:記事作成時点)

8月20日、秋田県仙北市西木町上桧木内地区では、桧木内川が氾濫し、周辺の住宅や道路が冠水し、土砂の流入に加え、断水も発生しました。

その後も不安定な天候が続き、9月2日にも再び住宅への浸水被害が発生するなど、住民生活への影響は大きく、復旧には時間を要する状態となっています。当ボランティア活動センターでも、刻々と変わる状況を注視し、災害ボランティアバス運行の検討など、今できる支援を模索してまいります。

ともに彩る、しずくいし

ボランティア団体紹介 VOL.10

しずく

おはなしの雫



↑ 9/8(月) 真剣に聞いている御所小学校6年生の児童ら
この日は地球温暖化がテーマの絵本も 🌱

読み聞かせの際には、さまざまな工夫をされているそうで、その1つが、“できるだけ新しい絵本を選ぶこと”。「新しい絵本は子どもたちにとって新鮮な驚きや発見につながりますし、最新のテーマを取り入れることで、身近な出来事について考えるきっかけにもなると思います」と、話されていました。

「おはなしの雫」は、読み聞かせを通じて、子どもたちに読書の楽しさを伝える活動をしているボランティア団体です。

平成16年(2004年)、町の読み聞かせ講座をきっかけに結成され、活動は今年で21年目を迎えます。

読み聞かせは、おもに“お話を理解できる”年齢層の児童を対象としており、町立図書館で「しずくいしおはなし会」を毎月開催しているほか、町内外の小中学校などからも依頼をうけ、絵本や紙芝居の読み聞かせを行っています。

代表の大信田さんは、「子どもたちに本に親しんでもらうことで、想像力を広げたり、人の気持ちに寄り添う力を育んでほしいと願っています」と話されていました。

おはなしの雫

- ・代表者…大信田(おおしだ)さん
- ・会員数…7名
- ・活動日時…「しずくいしおはなし会」:月2回
(第2・第4日曜)15時00分~15時30分
ほか 要望に応じて月数回
- ・主な活動場所…雫石町立図書館・町内外の学校 など

新たな会員を
絶賛募集中!ぜひお気軽に
ご連絡ください♪
【雫石町立図書館】
☎019-692-5959



西山小学校 防災出前講座

~「防災バック、なにを入れる?」楽しく備える“もしものとき”

9月5日(金)、西山小学校の全校児童を対象に、防災出前講座が行われました。

この日、子どもたちは全校防災学習として、町消防団による放水訓練を見学したのち、1~6年生までの縦割り班で、「防災バック(非常用の持ち出し袋)に何を入れるか?」をテーマにしたカードゲームに挑戦。70種類のカードの中から、各班で話し合って10枚を選びました。

スタッフは「子どもならではのユニークなカードが選ばれるのでは」と予想していましたが、実際には水や食料、ポリ袋等、どの班も基本の備えを重視。子どもたちの現実的な判断力に、大人のスタッフ側が驚かされる結果となりました。

子どもたちからは「おうちの人と一緒に準備してみたい」との感想もあり、防災を“自分ごと”として考える、良いきっかけになったようでした。



1年生から6年生
みんなで一緒に
話し合う

どれにする?

このカードを選んだ理由を
最後に発表!